

K. 宣教(伝道)

1. 召しと宣教

キリストが天に帰られる際に弟子たちに託された使命は、「地の果てまでわたし証人となる」(使徒 1:8)ことでした。この使命は、次の世代に引き継がれ、またその次の世代に引き継がれ、世の終わりに至るまで引き継がれてゆきます。私たちはこの一部分をになう継承者として召されています。また、1 ペテロ 3:15~16 には、私たちは、「弁明できる用意」をするように記されています。福音を託された私たちの使命は、福音の「証人」また「弁護人」となることです。

(1)「証人」…見たまま・聞いたまま・経験したまま、を証言する者

【使徒時代】主の復活の証人(使徒 1:22) → 【現代】永遠の命を頂いたこと(1 ヨハネ 5:10-11)

永遠の命を頂いた証し…具体的には何を証しすればよいか?

- ①キリストに出会う前の私の人生はどうであったか。
- ②どのようにして、キリストに出会い、どのようにしてキリストが必要だと気付いたか。
- ③福音によって、私の人生はどのように変えられたか。

(2)誰に対して「証人」となるのか?

【使徒時代】エルサレム、ユダヤとサマリヤの全土、および地の果てにまで (使徒 1:8)

→【現代】

家族(親、兄弟、子供)	職場・学校(同部署/同級生)	(必ず)
親戚	職場全体・学年や学校全体	(祈り求める)

2. どのように証しすればよいか

(1)前提として

- ①福音を語ることはできなくても、周りの人々が、自分が「キリスト教徒で日曜日は教会に行っている人だ」と知っている状態にする。
- ②優等生でなくても知らせる方が良い。神の栄光は、私の「成功」よりも「成長」に現わされる。

(2)だれにでも、いつでも弁明できる用意をしておく (1 ペテロ 3:15-16)

- ①上記(1)のように周りの人に周知させてあると、何かの折に(例、葬儀の前後)キリスト教について質問をしてることがある。その時は、証しをするチャンスである。自分の証しを話したり、集会に誘ったり、トラクトや CD、メッセージ動画へのリンク等を渡したりする。
- ②チャンスは突然訪れることが多い。集会案内やトラクト、CD等を、常備しておく方が良い。
- ③普段から、チャンスを祈っておく。また特に大切な人のためには継続的に祈る。
- ④説明を求める人には、敬意を持って説明する。
- ⑤賜物に応じて、自分にできる伝道を積極的に行う。

3. 特権と責務

(1)直接「語る」ことだけが宣教ではない。伴奏、伝道者の手伝い、献金、祈り、笑顔…、これらすべてが、「救われてほしい」という思いのうちになされるならば、宣教の働きである。

(2)救いを知っていながら、滅びに向かう人々に無関心でいられるだろうか?